

「参与観察から明らかになる表現教育 —公立幼稚園と私立幼稚園の比較から—

川瀬雅、後藤由佳、堀上みどり（環太平洋大学 次世代教育学部 こども発達学科）

1. 目的

平成29年3月に教育要領の改訂版が公示された。新教育要領では、幼稚園教育において育みたい資質・能力として以下の7つの資質・能力が挙げられている。

- (1)知識 (2)技能 (3)思考力 (4)判断力
(5)表現力 (6)学びに向かう力 (7)人間性

本研究では、現行の幼稚園教育要領で行われている領域(表現)における活動の教育的効果をまず先行研究から明らかにした。現行の幼稚園教育要領における領域(表現)がどのようにして実際の教育現場で展開されているか確認する。

上記のことを踏まえて、新教育要領施行にあたっての課題を明らかにする。

2. 領域<表現>における活動の教育的効果



(5)表現力
(7)人間性

①情緒的な成長を促す
楽しみや喜び、悲しみなどの感情、美、満足などを体験し、豊かな情操を育む。

②感性を豊かにし、創造力を培う
素材を発見し、探究し、また比べるなどによって自分の中に心の動きが生じる。

感性：感覚器官で知覚された経験に、感情、衝動、欲望などを加えた後天的に人間に備わっていく概念。
創造性：環境の中にあるものをベースにして何か新しい事物を構成する力。

(3)思考力
(4)判断力
(5)表現力



(1) 知識
(2) 技能

⑥認知的技能を身に付けることを補助する
認知的技能(文字、数、対概念)を教えるための有力な道具になる。
身体的表現においては「基本的な動作」(体育化学センター,1980)のうち、非日常的動作を身に付けることができる。

領域<表現>

③社会性が身につく
グループ経験などの共同作業を通して、集団内で自己を抑制する力や、他者と協調する力など、将来必要となる社会的習慣が身に着く。

(6)学びに向かう力
(7)人間性



(2)技能

⑤感覚統合の訓練になる
幼児期の行動は無意識的だが、発達段階に応じて行動は意識的になっていく。イメージは固有感覚と前庭感覚が統合的に作用することによって実際に身体で表現することができる。

④道徳性が身につく
良き市民精神、あるいは品行の発達に影響を及ぼす。

(7)人間性



3. 方法と観察

観察方法 観察者が園児に直接関与しないよう、ビデオカメラを用いて非参与観察する。
カリキュラム化された両者の教育活動を比較することで、新教育要領施行にあたっての領域<表現>における共通課題を明らかにする。

観察対象②
私立幼稚園 年少(3歳児) 28名
実施日 2017年9月4日 9:30-10:00(30分間)
二拍子、三拍子、即時反応などを目的にしたリトミックで、教師1人が一斉授業を行う。

観察対象①
公立幼稚園 園児数(3歳児から5歳児) 46名
実施日 2017年10月14日 9:30-10:15(45分間)
自由遊びのなかの表現活動の観察
教師が複数の活動に関与する授業形態

身体表現	活動内容	園児の行動	教師の行動
「動物の真似」 ♪おうまはみんな	馬の真似をして、走る。	音楽に合わせて馬の真似をして動く。	馬の特徴を伝える。
「友達と二拍子」 ♪とんぼのめがね	2人組になって「とん(手拍子)、パチ(友だちと手を合わせる)」と二拍子を感じる。	1回目はうまいかず、押し合いのようになった。友達と相談しながらゆっくりと練習する。	2人組になって手を繋いで座るように指示する。見本を見せる。
「ありさんのおうち」 ♪二拍子のリズム	フープをアリの家に見立て、入ったり出たりする。	音の変化(速度、高低)を感じて教師の指示通りに動く。しゃがんで小さくなって移動する園児もいた。	音の変化を伝えて、音に合わせて動くように指示する。
「おつきさま」 ♪月(つき)	フープを月に見立てて、持ち上げたり左右に揺れたりする。月の色や形について問う。	フープを上に向けてくると自転する園児もいた。	10月はお月見という行事があることを教える。
「おだんご」 ♪あっちこっち～ ♪やまにのぼれ	ボールを配り、お団子に見立てて遊ぶ。お団子の味を問う。ボールの感触を確かめる。歌いながら体の部位(頭、背中、首)にボールを乗せる。	「パンの味」「りんご味」「ぶどう味」「おもちの味」など様々な答えを言う。教師の真似をしてボールを動かす。素材の性質に気が付いて投げたり転がしたりする園児もいた。	「できるかな?」などと声をかける。歌いながら動きを見せる。
「ドライブ」 ♪即興の効果音 ♪速い4拍子 ♪低いド ♪速い4拍子 ♪サイレンの音 ♪半音付点のリズム ～不協和音 車がヘリコプターに変身 →三拍子	フープをハンドルに見立てて、運転の真似をする。ガソリンを満タンにする。フープを左右に動かしなが走り出す。赤信号の合図で止まる。青信号のかけ声で再び走り出す。道を空け、教室の端による。でこぼこ道を走る。車がこわれる。ヘリコプターで遊園地につくが休園だった。遊園地にある乗り物について確かめる。	教師の指示通りに動く。音の変化に合わせてフープの動きも遅くしたり、大きくしたり、細くしたりと変化させる。「赤信号」「青信号」「救急車」などの教師の指示を聞いて止まる・進むを判断する。動かずにその場でずっと止まっている園児もいた。	音が変化したことを伝える。持っているフープの色を気付けさせて、フープの色ごとに動くように指示する。

身体表現	活動内容	園児の行動	教師の行動
引越し鬼 ♪オクラホマミキサー	先生が鬼役で、音楽が止まったらフープの中に入る。入れなかったら鬼に捕まる。(全園児)	捕まらないように逃げる。逃げていた友達を応援する。友達に空いている場所を教える。わざと捕まろうとする。	園児を追いかける。捕まえた園児の前に立たせて目線を合わせて会話をする。捕まった園児は先生の質問に答えながら自己紹介をする。
自由遊び ♪ペンギンのプールのたいそう 他	ステージの上で運動会で踊った曲に合わせて踊る。ポンポンを持って踊る園児もいる。(年長)	元の踊りに加えて、習っていない動きをする。ポンポンを持って音に合わせて踊る。友達が落ちたポンポンを拾って箱に戻す。繰り返し同じ曲で踊る。繰り返すうちに、踊る方向や隊形を工夫する。	客席に座って「すごいね」「上手になったね」などの声かけをしたり、拍手をする。
造形	活動内容	園児の行動	教師の行動
製作	円・ドーナツ型・四角・三角・ハート型に切った段ボールに、いろいろな木の実を貼る。(年長)	「観察したい」と言って友達が作品を作る様子を観察する。素材が丸いため、平に接着できないことに気が付く。	道具の使い方を説明する。友達の作品を紹介する。

・毎日午前中45分間の自由遊びを行っている。その内容は、前日の「振り返りの時間」に決めているため、それぞれが目的をもって自由遊びを行っている。
・教師は園児の取組みを見て、状況に応じて肯定的な声かけを行っていた。ほとんどの園児は、45分間同じ遊びに取組んでいた。
・全体を通して、知識、技能よりも社会性、感性・創造性が養われる活動だった。

<観察から明らかになった共通の課題>

- ・情緒的な成長が促されるような経験を環境として設定することが困難である。
- ・新たな素材や、既にあるものを探求する指導が行われなかった。
- ・環境に対する葛藤が見受けられず、相手の心情を押し量る経験がなかった。
- ・自発的な音楽の活動が行われなかった。

・園独自の活動を日替わりで行っており、今回のリトミックはそのなかの1つだった。活動の目的は教師によって決められ、30分間様々な設定で展開されていた。
・教師はカリキュラムを展開させて、目的を達成させるための指示や問いかけに徹していた。ほとんどの園児が教師の示す活動に意欲的に取組んでいた。
・全体を通して、知識、技能が養われる活動だった。

4. 新教育要領施行に向けての展望

- ・経験よりも、体験をさせて豊かな情操を育む。またその環境を設定する。
- ・1つの活動を探求して、経験が深まるような指導や声かけを教師が行う。
- ・環境に葛藤したときの粘り強さや、挑戦する気持ちなど非認知能力が養われるような活動を行う。
- ・音に対する教員の意識を変革させる。

5. 今後の研究課題

1. 新教育要領における7つの資質・能力の検討
2. 豊かな情操が育まれる体験・環境の検討
3. 探求を目的とした活動内容の考案
4. 非認知能力が養われる活動の考案
5. 容易に取入れることのできる音楽活動の考案

音楽活動は作品の演奏や歌唱が主になっているが、他の表現の活動と同じように身近にある素材に注意を向けて活動に発展させることも1つの方法である。このような活動が認知されることによって幼児期における音楽活動が活発になるだろう。

参考文献

・石川浩子著、「幼児の発達過程における「現代的なリズムのダンス」」日本女子体育大学紀要第44巻pp.97-103(2014)
・井本美穂著、「米国20世紀初期における幼稚園の音楽教育に関する研究」広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要(26)pp.39-46(2014)
・山村慎、吉野秀幸著、「「全体性」を体験する「場」としての音楽教育」大阪教育大学紀要(53.2)pp.27-43(2005)
・ドローシー・T.マクドナルド、ジェーン・M.サイモンズ著、神原雅之等訳「音楽的成長と発達—誕生から6歳まで」溪水社(2000)
・マイケル・アングロシーノ著、柴山真琴訳「質的研究のためのエスノグラフィ—と観察」新曜社(2016)
・宮本乙女、中村恭子、中村なおみ等著、全国ダンス・表現運動授業研究会編集「みんなでトライ！表現運動の授業」大修館書店(2015)
・無藤隆、汐見稔幸、砂上史子著「ここがポイント！3法令ガイドブック」株式会社フレーベル館(2017)
・村田修子著、岸井勇雄・小林龍雄等編「表現 I 感性と表現」チャイルド本社pp.72-85(2000)